

*サブテーマは活動されるメンバーにて決めていただいで結構です。

キーワード	研究活動の活動内容（案）	活動テーマ（案）
■ デバイスを活用して何が出来るか？その時に必要な環境づくりは？		
1 ◆スマートデバイス	スマートフォン、タブレット端末などのスマートデバイスの利用をする企業が珍しいものではなくてきてきているが、すでに導入した企業、導入を検討している企業ともに、課題を抱えているのが実情。 活用のための企画手法、効率的な設計、開発手法、運用フェーズにおける運用管理、セキュリティ担保や、TCOを見据えたコスト計画と評価 などの課題があげられる。 また、スマートバンドなどウェアラブルをキーワードとしたデバイスが現れてきており、スマートデバイスとの連携が可能な新たなデバイスの出現は、既存のスマートデバイスの活用に新たな方向性を与える可能性がある。 スマートデバイスが成熟していく中で、これらを企業内で取り入れるに当たっての課題に対するベストプラクティスを見出すべく研究してゆく。	<p>■例示</p> <p>【案】スマートデバイスの企業(業務)</p> <p>【案】スマートデバイス利用アプリケーションの効率的な開発手法</p> <p>【案】スマートデバイスのスマートな運用管理手法</p> <p>【案】スマートデバイスを拡張するデバイスの企業内活用をさぐる</p>
2 ◆ウェアラブルデバイス	Googleグラスやスマートバンドなど体につけるデジタルデバイスが普及してきている。まず消費者を中心に取り込まれると思われるが、対象がビジネス消費者へと遷移することは遠くない。これらの機能をビジネス面での適用ケースとして検証することで、新しい働き方を示唆する。	<p>■例示</p> <p>【案】ウェアラブルデバイスのビジネス分野への適用</p>
3 ◆センサーデバイス	KinectやLeap Motion Controllerなどの安価なモーションセンサーの業務利用が始まっているが、本格的な普及は数年後であると予想される。普及期を見据え、どのような業界で、どのようなシーンで活用できるかを考えて列挙していく。なお、技術的な制約は存在しないものとして、便利だと思ふシナリオを自由に発想することが求められる。	<p>■例示</p> <p>【案】センサーデバイス モーションジェスチャの活用</p>
■ ソーシャルネットワーク、ビッグデータ等の活用を考える		
4 ◆SNS	twitter /LINEによる情報の拡散は無視できない存在となっている。企業や商品に対する感想・批評は瞬間に広がっていくため、企業はそれらに迅速に対応していくことが求められる。また、少数意見のキャッチアップは有益な情報が得られることもある。その価値や利点をビジネスの現場にも活かして、業務の効率化や現場の活性化を図ることが期待されている。単純にSNSを企業内に導入しただけで効果が得られるのか、逆に業務効率を落とすことにならないかなど、ビジネス現場でのSNSの活用の勘所について研究する。	<p>■例示</p> <p>【案】企業内SNS導入を成功させる勘所</p> <p>【案】SNSで得られる情報をマーケティング活用へ</p>
5 ◆ビッグデータ	ビッグデータを活用し、競争力のあるビジネスモデルを確立したり、新たなビジネス分野へ参入する企業が現れている一方、ビッグデータ活用へ過剰な期待を求めて結果に結びつけることができない企業も散見する。近年、データサイエンティストなど新たに注目される言葉を多く聞かれるようになっていく。その中、社内でも新たなデータの取り扱い方の勉強会まで実施している企業もある。メディアの煽り記事に踊らされることなく、冷静にビッグデータを扱うことへの理解を深め、データ利用における課題やビジネス変革への活用を模索する。	<p>■例示</p> <p>【案】ビッグデータ利用におけるビジネス課題の解決に向けて</p> <p>【案】データリテラシーを高めてビジネスに役立たせるには</p>
■ 更なる求められる生産性向上・品質向上・リスクをいかに乗り越えるかを考える		
6 ◆生産性向上	IT技術の進化は目覚ましく、開発期間が長くなるかかると設計時点のIT技術が陳腐化していることも否めなく、またコスト面でも課題がある。このような中、開発生産性を如何に向上させ開発期間を短縮するかは、IT部門に課せられた課題であり、ここではオープンソースであるRedmine、Jenkins、GIT、などを活用して開発生産性向上について考察する。	<p>■例示</p> <p>【案】生産性向上にオープンソースを活用したシステム構築の取組み</p>
7 ◆品質管理	システム障害は、発生すると対応に余分な工数がかかるだけでなく、内容によっては、信用を落とすことにもなりかねない。よって、起こさないこと、また再発させないことは、システム担当者には必須の課題である。そこで、参加者の所属する部署で行っている、インシデント管理、品質管理の方法を評価しながら、最適な管理方法を検討する。また障害を起こさないための、情報、知識の共有方法にも視野を広げ、品質管理・向上ソリューションを提言する。	<p>■例示</p> <p>【案】システム障害を防止するための品質管理</p>
8 ◆プロジェクトリスク管理	従来型のリスク管理を実施しても、深刻なリスクに対処しきれない。挑戦的なプロジェクトが増えるにつれてこのようなケースが増えている。先見性と俊敏性を高める「超リスク管理」の実践が急がれている。これをいかに利益を得るチャンスとしてノウハウの蓄積につなげることができるか？実践型のリスク管理のあり方を検討する。	<p>■例示</p> <p>【案】プロジェクトの成功させるリスク管理</p>
■ 今後のセキュリティのあり方を考える		
9 ◆セキュリティ	企業は情報システムの利用を外部ネットワークから隔離された社内ネットワーク中心ととらえ、アクセス管理を実施してきた。また、外部ネットワークの接続では各種通信機器にて管理・監視することでセキュリティを担保していた。 昨今、ワークスタイル変革により、スマートデバイスを活用して外部ネットワークを利用する社員が増えている時代になっており、このような時代における情報セキュリティのあり方を検討する。	<p>■例示</p> <p>【案】新たな時代の情報セキュリティ</p> <p>【案】セキュリティについて利便性と機密性のバランス</p>
■ グローバル対応・災害対策など期待されるクラウド運用のあり方を考える		
10 ◆クラウド運用	仮想化でサーバ統合したシステムを徐々にプライベートクラウドに移していくという使い方へと進んだ企業では、リソースをプール化して、必要なときに必要な量だけ使う体制や課金制度へと進んでいる。グローバル企業であれば国境や海をまたいで利用しやすいパブリッククラウドを利用して、コスト最適化に向かっている。反対に、絶対にダウンさせてはいけないシステムは従来型のオンプレミスのままというケースもある。 企業の情報システム部門としては、ハードウェアやソフトウェアのサポート停止による更改コストなど運用コスト、災害対策、新技術への適用スキル等の課題がある。 企業の情報システムの今後のあり方をいくつかのテーマから方向性やあるべき姿を研究する。	<p>■例示</p> <p>【案】クラウドで何が出来るのか？</p> <p>【案】「クラウド時代の運用管理のあるべき姿とは」</p>

■ 継続するアプリケーションの保守を考える			
11	◆アプリケーション保守	近年、新規にアプリケーションを開発することは減り、既存のアプリケーションを改造・保守しながら使い続けることが増えてきています。長期にわたりアプリケーションを保守し続けていくためには、新規開発とは異なる技術が求められます。本研究は、担当者が代わってもアプリケーションを長期に保守し続けるための技術を対象にします。	■例示 【案】アプリケーション保守（AMO）の継続化に対応する技術を検討する。
■ IT部門のあり方・求められる若手技術者育成・更なる活躍が期待される女性を考える			
12	◆情報システム部門 IT技術者のスキル	現在、さまざまなIT技術者が開発作業に携わっているが、日々技術スキルに対する要求が変化している時代である。将来的な技術革新も見据えた形で技術スキルを体系化して、時代の変化に耐える技術者の存続を考える。ある時は高い技術スキルがあったとしても、時代とともに時代遅れの技術となってしまうことがあり、その技術者は衰退していきってしまう。そうならないように、先見の目を持って教育や技術訓練等の手段を駆使して技術力を常に維持できるように管理していく。情報システム部門をはじめとするこれからの求められる人材像を追求する。	■例示 【案】IT技術者のスキル向上における体系化を考える
13	◆若手IT技術者	これからのIT発展を担う技術者の人材育成は、企業にとって重要な施策である。システムに携わる人材は技術スキル取得をメインに考えている傾向が強い。しかし長い目で会社人生を捉えて人材育成視点、自己啓発視点を常に意識していく必要がある。企業の存在意義を確認することにより働き甲斐、生きがい、更に個人のパフォーマンスを発揮するために何が重要か？入社3～5年生は会社に慣れこれから目指すもの、会社側から期待されていくためには参加者が自ら考え、テーマとなりをすべきかなど、方向性を検討・決定していく研究活動、これらをさらなるビジネススキル、ITスキルまで拡大につなげることを考える。	■例示 【案】若手技術者が職場で活躍するために（参加者の方でテーマ検討）
14	◆ダイバーシティ	2013年はアベノミクスの成長戦略の中核としても挙げられ、女性活用は各企業で喫緊の課題となっているが、実際に取り組んでも思うように進まないケースが少なくない。現在、女性活用施策を推進している企業の現状と課題を整理し、その成功要因／課題の原因を突き詰めて解決策を検討し、効果的な女性活躍推進とそのポイントを提言する。	■例示 【案】ダイバーシティ戦略に役立つ女性活躍推進のあり方
■ 業種・業界特化した課題、更なるビジネスチャンスを考える			
15	◆物流業務	「物流業務・業界における品質向上」の研究成果を踏まえ、参加企業各社の業務改善に留まらない「魅力的物流サービス」とは何か、その実現に向けた提言を期待する。	■例示 【案】物流業務・業界における品質向上と人材・プロセス・テクノロジーで期待を超えるサービスの探求
16	◆流通/通販・小売業界	OPENS MARTのスポット情報には、店舗のような位置情報があるものと、商品のような位置情報がないものが設定できる。また、GPS、音波/QRコードによるチェックインができるので、これらを組み合わせた活用方法と消費者行動理解のための分析方法について検討し、試験的にOPENS MARTでO2Oサービスを定義し、シミュレーションしてデータを取得し分析を行い、顧客満足や売上につながる施策を案出するまでの研究を行う。	■例示 【案】「OPENS MART」の店舗での活用方法と分析方法の研究 【案】実ツール「OPENS MART」の活用

★支部毎に改めて募集テーマを絞ってご案内することがありますので、詳しくは各支部事務局までお問い合わせください。

★上記募集テーマは変更する場合がございますので予めご了承ください。